

2026年1月14日（水）

老球の細道904号

コーチの「愛すること」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

毎年今頃の時期は大雪の天候が予想されるので、バスケットクリニックの依頼が減少する。そのため「教養（今日用がある）」「教育（今日行くところがある）」の「爺の老後2原則」にブレーキがかかる。だからと言って、のんびりしていたのでは、人生の貴重な時間を無駄にしてしまう。

そこで、いつも思い出すことは、マラソンのシドニー五輪金メダリスト高橋尚子選手がコーチから教えられた「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」と、作家宮本百合子の「うらかな春は 厳しい冬のとから来る かわいいフキのとうは 霜の下で用意される」という言葉である。暇なとき、落ち込んでいる時こそ、じっくり基本に戻り、次なるチャンスに備えよということであろう。

現在は読書、各種大会ゲームの見直し、外国クリニックの学習などに毎日充実した時間を過ごしている。特に読書は、自分の生き方のみならず、コーチングの発想、選手に対する対応などでバスケットボール以外からのヒントをたくさん得ることができる。現役教員の頃に山のように購入した本があちこちに積読されているので、もったいないお化けに笑われないように、それらの本を取り出して読みあさっている。特に哲学、歴史物、人物伝の本から学ぶことが多いので、それらのカテゴリーが今回のターゲットである。

その中の一つ、1980年に購入したW・エヴァレット著『生きること 愛すること』（講談社現代新書）がある。読んでいたら、「アガペの愛」のことが書いてあり、それは「自分を与える」ことであると書いてあった。また、相手をどのくらい愛しているかを知るには、何ではかれば良いのだろうか。答えは簡単である。時計ではかるのであると。私たちは、自分の好きなもの、愛しているものに時間をかける。聖書の中にも「あなたの宝のある所には、心もある」と書いてあるが「人の心のある所には、時間もある」。

ところで、「コーチ」という仕事は、予測できない10代の若者を扱い、コーチの気分次第で若者たちを楽しくするか惨めにもする。片手間にできる仕事ではなく責任重大である。そのためにコーチ「COACH」には重要な5つの資質がある。C（Comprehension）総合的知識、O（Outlook）哲学、A（Affection）愛情、C（Character）人格品性、H（Humor）ユーモア。私はこの中で「愛情」が最も重要な資質であると思う。コーチから深い愛情を受けた選手はコーチに心服し、コーチからの指導を真綿が水をしみこませるように吸収する。

コーチの「愛」は何ではかれば良いか。かつて会高バスケOB会長故直之氏から教えていただいた。「畑の作物の最高の肥料は何か。作る人の畑に残る足跡である」。どれだけ多くの時間、畑に通って作物に向き合ったかが最高の肥料となり、最高の作物を作ると。同じように、素晴らしい選手を育成するには、どれだけ多くの時間コートに足を運び、選手を見つめ続けることに尽きる。愛は炎のように、そして愛はすべてに勝つ。